

NIC あれこれ探検隊

このコーナーでは、日ごろあまり表に出ることのないNICの事業やボランティアスタッフの活動などをご紹介します。みなさんの知らなかったNICのあれこれを見つけてみてください。

NIC 語学ボランティア

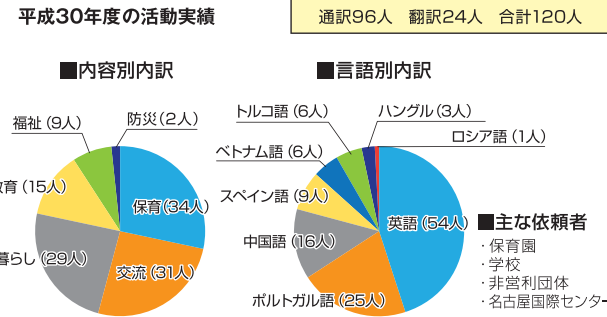
名古屋国際センター(NIC)では、登録ボランティアの協力により、在住外国人が言葉のサポートを必要とする場面での通訳・翻訳活動を行っています。主に国際交流イベントや保育園等での通訳、手紙・簡単な資料類(公文書は除く。)の翻訳などを行います。

通訳ボランティアを利用した保育園の先生からは「言葉や制度の違いなどで戸惑っている保護者の気持ちを理解した上で、懇談会の内容を伝えていただき大変助かった」という感想をいただきました。語学ボランティアの一人は「内容が難しく上手く通訳できない部分もあったが、先生と保護者双方から感謝され、少しでもお役に立てたことが嬉しい」と語りました。

また、名古屋まつりのイベントに参加した英語のボランティアは「会場のインフォメーションデスクで外国人来場者に通訳活動を行った。通訳の場面はあまり多くはなかったが、他のボランティアと一緒に活動でき、有

意義な経験をすることができた」と活動後の感想を寄せてくれました。

NICでは定期的に語学ボランティアの登録説明会を開催しています。語学ボランティアにご興味のある方、また、語学ボランティアの依頼をご希望の方はNICのウェブサイトをご確認ください。



問 交流協力課 ☎052-581-5689 ✉vol@nic-nagoya.or.jp

ふらりライブラリー

特に目的があるわけではないけれど、ぶらっと来てみたら、気になることに出合える場所。このコーナーではNICライブラリーと、ライブラリーの本をご紹介します。NICライブラリー 名古屋国際センタービル3階 9:00~19:00 月曜休館

手元に置きたい1冊

「普通はこうでしょう」と言われたり、言ったことはありませんか。

多くの場合、言われた方は自分が普通ではないようで、あまりいい気持ちがしません。

こんな風に考えてみてください。人は皆、自分の中に自分だけの辞書を持っていて、生まれてきた時には真っ白だったその辞書に、色々な定義を書き込みながら生きています。体験したこと、見聞きしたこと、学んだことなどを基に、その辞書は毎日更新され、死ぬまでずっと使い続けます。環境が異なれば、その辞書の内容が異なることは想像に難くありません。そう考えると、皆の「普通」が少しずつ違っていても何の不思議もありません。自分自身の辞書でさえ、昨日と今日では全く同じではないはず。

今日ご紹介する絵本「みえるとかみえないとか」は、色々な普通があっていいと読者を安心させてくれます。宇宙飛行士の主人公が色々な星に行って調査をする設定になっていて、読んでみると、固まっていた自分の脳がもみほぐされる感じがします。そして、付録の「『みえるとかみえないとか』ができるまで」も本が完成するまでの作者の試行錯誤の様子がうかがえ、「そうそう」とうなずけるぜひ読んでいただきたい内容です。



「みえるとかみえないとか」

クイズ Q. 現在日本の大使館は世界の何か国にあるでしょうか。

国・4961ヶ

国際留学生会館から

日本のものづくりを体験 その魅力と技 ~DVD撮影に参加しました!~

즐거웠습니다
츄르ゴウオッスムニ다
(楽しかったです!)

星城大学経営学部交換留学生
李 恩定さん(韓国出身)



一般財団法人東海テレビ国際基金が手がける日本文化紹介DVDに国際留学生会館(以下「ISC」)在住の留学生が出演しました。撮影に参加した韓国出身の李恩定さんに当日の感想などについてお話を伺いました。

私は韓国人の父と日本人の母との間に生まれました。日本には何度か旅行などで訪問しましたが、母国で培った日本語能力がどの程度通用するのかわかりませんでした。同時に旅行だけでは体験できない日本の文化や風俗習慣なども学びたいと考えました。



▲ナビゲーターのクリス グレンさんと撮影に参加したISC留学生(左から2人目が李さん)

ISCに入居してほどなくスタッフから「日本文化が体験できるDVDに出演してみませんか」と声をかけられました。日本は母の母国でもあり、留学中は様々な場所に出向き、自分の目で見て体験したいと思っ

ましたので、迷うことなく引き受けました。撮影は昨年12月上旬、常滑市で陶芸を体験しました。「常滑焼」は世界的にも有名ですが、陶芸は韓国でも人気があります。ソウル近郊の都市「利川市」も陶芸の街として知られており、私も現地で陶磁器づくりの経験があります。しかし、実際に常滑焼を体験してみると、利川で使用している土とは質感が異なっていました。利川の陶芸は土が固いため、形を整えるために力を加える必要がありますが、常滑焼は土の質感がとても柔らかいため、同じような方法ですぐに形が崩れてしまい、予想以上に仕上げが難しかったです。それでもプロの方に指導していただきながら、私にとって世界にひとつしかない作品(ピアカップ)を完成させることができ嬉しかったです。同時に日本と韓国のものづくりの違いを体験することができて大変貴重な時間となり、撮影に参加して本当に良かったと思っています。



▲常滑焼に挑戦!

※一般財団法人東海テレビ国際基金が毎年来日外国人向けに作成しているDVDで、日本の文化や伝統・歴史などの魅力を紹介している。2018年度のタイトルは「日本のものづくりを体験 その魅力と技」で、常滑焼のほか、中部国際空港やリニア・鉄道館など日本の技術力を紹介している。日本語、英語、スペイン語で視聴できる。このDVDは、NICライブラリーで視聴できます。

国際留学生会館とは… NICが2001年から管理・運営している、名古屋港区にある留学生専用の宿泊施設。居室90室のほか、研修室や和室、体育室などを備え、100名の留学生が生活できる。日本文化理解講座の開催や各種相談・情報提供、地域住民との交流などを行っている。

シリーズ

グローバルに活躍する若者たち グローバルに活躍する若者を応援するプロジェクト「グローバルユースデー2019」を開催しました

今回は、3月16日に実施した「グローバルユースデー2019」について報告します。

「グローバルユースデー」とは?

国際交流・国際協力・多文化共生などの分野で活躍する若者の活動や思いを発信する機会をつくり、活動をサポートするプロジェクトです(2017年から実施)。今回も愛知県内だけでなく、浜松や岐阜など、近隣の地域からもご参加いただきました。

トークセッション

国内外問わず活躍する3名のゲストスピーカーをお招きし、それぞれの取り組みや活動への思いなどをお話いただきました。グローバルに活躍するには、視野を広く、機会を求めて何事にも挑戦することが大切であるというメッセージが参加者に送られました。

参加者の声

参加団体からは、「実現不可能だと思っていたことが、色々な方法によってかなうことを知った」、「他の団体の発表を聞いたことで、様々な視点が得られた。今後の活動に活かしたい」などの声が多く寄せられました。さらに、これからグローバルに活躍することを志す参加者からは「何をすればよいか分からないモヤモヤが解消された」などの感想があり、それぞれが一歩を踏み出すきっかけとなりました。

プレゼン大会/交流タイム

13の若者団体が活動内容を発表しました。どの団体の取り組みにもオリジナリティがあり、それぞれ熱い思いが感じられるプレゼンテーションでした。また、活動発表後に行った交流タイムでは、ブースでポスターや写真などを掲示し、参加者との意見・情報交換を行いました。団体と来場者、そして、団体同士が交流し、それぞれに気づきをもたらすと同時につながりを作る機会となりました。



▲参加者同士が活発に交流しました

NICでは、今後もフォーラムや研修など各種事業を行い、グローバル人材を目指す若者を応援していきます。ぜひご参加ください。

グローバルユースデー2019の様子を動画にまとめました。NICウェブサイトをご覧ください。

問 交流協力課 ☎052-581-5691 ✉koryu@nic-nagoya.or.jp